

# ビキニ被災船員の救済について

## 高知県議会9月議会で一問一答のやりとり

10月4日、高知県議会で、長年「ビキニ被災船員の救済に取り組んできた吉良富彦氏(共)」が持ち時間の大半を使って7項目にわたって質問しました。内、3項目の質問に対する、濱田知事、健康福祉部長の答弁を紹介します。



▼吉良県議は、3月に開催した、県主催のシンポジウムでの、鎌田七男広島大学名誉教授が、「黒い雨」と「ビキニ被災」はともに内部被ばくであり、両者ともに政治的側面によって①人体に影響はないと言われ、②隠ぺいされ、③放置され、④他の被爆者と同様な扱いをされず差別されてきたと述べた。廣橋伸之広島大学教授は、政治低背景が影響しリーダーが外され、長い間闇に葬られ評価、補償がされなかったと発言したことを紹介し、シンポジウムの評価を問いました。

▼濱田知事、「放射線被ばくに関する正しい知識の普及とともに、ビキニ被災の歴史的経緯を風化させず、伝承していく事は非常に重要。そういった意味で、今回のシンポジウムは県民に対して一定の成果があったと受け止め、今後も引き続き県民への周知に努めていきたい」と答弁しました。

▼吉良県議は、国賠訴訟で高知地裁が水爆実験による被ばくを認め、立法府・行政



府による救済の必要性に言及した判決がなされたことをふまえ、県としての対応を議会で質問した際に尾崎前知事は「どのような法的枠組みがあれば救済に向けた取り組みが可能か検討したい」との答弁との関連でその進捗状況を問った。

▼健康福祉部長は、「ビキニ被災船員の方々への支援に関する法的枠組みを検討するため、令和元年度に庁内でワーキングチームを立ち上げ、被爆者援護法の枠組みなどについて議論すること併せて、太平洋核被災支援センターとの意見交換を行いました。その後、これまで複数回、厚生労働省関係部局に赴き、担当者や救済に向けた制度体制の可能性について意見交換をしてきたが、残念ながら進展はない」と答弁。

▼吉良県議は「黒い雨」訴訟判決で「身体に原子爆弾の放射能の影響を受けるような事情にあつた者」といえるためには、放射能によつて健康被害が生じることを否定することができない事を立証することで足りるとし、科学的知見は、そのような観点で用いべきと判断した事。もう一つは、広島地裁が被爆者認定には、黒い雨にさらされるだけでなく、疾病の発症が必要としたのに対し、広島高裁判決は、疾病の発症を要件から除外したことを紹介し、被災船員救済には、被爆者援護法の適用拡大などの改定



高知県議会9月議会の様子

を図る、あるいは「核実験被ばく者」援護の特別措置法新設などや、また県独自の条例制定などを求めた。

▼健康福祉部長は、「ワーキングでは、被爆者援護法を援用した枠組みなども検討してきましたが、核爆弾の威力や被災の範囲が、広島・長崎原爆と大きく異なり、被災の事実認定などを援用することは困難との認識に至っています。また、県条例の制定についても同様の課題が生じるため、科学的知見の集積が乏しい都道府県レベルでの対応には限界があると考えています。」と答弁。

▼吉良県議はウイーンで開かれた第一回核兵器禁止条約締結国会議でビキニ被災者の証言ビデオが上映され、太平洋核被災支援センターが提供したビデオは、「被災船員の埋もれた歴史に光を当てた」と高く評価された事、県が後援した「ビキニデー」高知2022では、中満泉国連事務次長がビデオメッセージを寄せられ

た事を紹介し、県と太平洋核被災支援センターとの連携が「ビキニ環礁水爆実験に遭遇した元乗組員の被ばくによる健康被害に対する支援に向けた取り組みを行う」県の事業推進になっている事、尾崎前知事は「県として追跡調査を実施していくことは困難だが、太平洋核被災支援センターなどが追跡調査を継続的に実施していけるような支援策を検討する」と述べた。被災者に寄り添った活動を展開してきた太平洋核被災支援センターが、継続的に追跡調査が実施していけるように継続した支援策を濱田知事に求めた。

▼濱田知事は「これまで太平洋核被災支援センターにおいて、当時の資料や被災船員の方々の証言など、大変な時間を費やして調査を実施されたことに対して、あらためて敬意を表したい。今後も活動を継続されるにあたり、追跡調査に係る関係団体への協力依頼など、県が側面から関与することで、円滑に運ぶものがあれば協力したい。引き続き、県と、太平洋核被災支援センターが連携することで被災者への支援の輪が広がることを期待したい」と答弁。

◆太平洋核被災支援センターは、1985年結成した高知県「ヒキニ水爆実験被災調査団」から発展し、2012年に結成。核実験被災船員の健康状態追跡調査と救済を求めて活動。国の公文書を開示させ「ヒキニ事件はまだ終わっていない」ことを告発し、裁判で原告を助めています。

**クラファン NEWS**  
No6 2022 10 10

支援総額 **2,673,000円** 10/9 現現  
目標金額 5,000,000円  
53%